

子どもの本だな 69

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

もりのなか

マリー・ホール・エッツ ぶん・え
まさき りりこ やく (福音館書店)

ぼくは、紙の帽子をかぶり、新しいラッパを持って、森へ散歩に出かけました。すると、ライオンに出会いました。「ついていていいかい？」ライオンは髪をきれいにとかし王冠をかぶって、ぼくの散歩についてきました。ぞう、くま、カンガルー、こうのとり、さる、うさぎもついてきました。森を行進し、お菓子を食べて、“はんかちおとし”や“ろんどんぼしおちた”をして遊び、かくれんぼうをしたら、ぼくが鬼になりました。「もういいかい！」ぼくが目を開けると、動物たちは1匹もいなくなって、かわりにお父さんがいました。

白黒のみで描かれる絵はあたたかく、森の不思議な雰囲気をよく表しています。続編に『また もりへ』があります。読んでもらえば2～3歳から。(池之上)

大力のワーニャ

オトフリート・プロイスラー 作
大塚 勇三 訳 (岩波少年文庫)

3人兄弟の末っ子のワーニャは、森の中で盲目の老人と出会います。老人は、ワーニャが皇帝になると予言し、力をたくわえるために、パンやきかまどの上でなまけているようにと告げました。ワーニャはかまどの上で7年間過ごし、家の屋根を持ち上げられるほどの大力になりました。

いよいよワーニャは、皇帝の冠があるという、白い山々のかなたの国を目指して旅に出ました。道中、オッホという怪物や石の騎士、魔女のババヤガーらに勇敢に立ち向かい、苦しんでいる人々を救い出し、目指す国にたどり着きました。

ロシアを舞台に、なまけものと思われていたワーニャが数々の冒険に挑み、皇帝になるまでの姿が雄大なスケールで描かれています。9歳くらいから楽しめます。(光藤)

7月	8月	7・8月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
11日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	15日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	22日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>
なつや de あすかイチ inふるさと文化村
2019年8月3日(土)
10:00~15:00

●聖徳太子1400年プロジェクト歴史講座
聖徳太子 一移り変わる人物像
とうの はるゆき

- ・講師：東野 治之 氏
- ・時間：14:00~15:30
- ・場所：あすかホール 中ホール

●**絵本の時間**

- ・対象：2~3歳の子どもと保護者
- ・時間：11:00~(20~30分程度)
- ・場所：図書館 おはなしの部屋

●**青空リサイクル**

- ・時間：10:00~なくなり次第終了
- ・場所：図書館 玄関前

※持ち帰る袋は持参してください。

『ボノボとともに 一密林の闇をこえて』 エリオット・シュレーファー 著

ふなと よし子 訳 福音館書店 397頁 2016年5月刊 1,700円 (請求記号) Fシユ

最近までチンパンジーの一種とおもわれていたボノボは、類人猿の中で最も人間に近いDNAを持つといわれている。そのボノボの生息地、コンゴ民主共和国(旧ザイール)で保護施設を運営するコンゴ人を母に持つソフイーは、アメリカ人の父とフロリダで生活し、長期休暇は母のいる保護施設で過ごす。ある年、コンゴにやってきたソフイーは、売り物にされている幼いボノボを見つけ、違法であることを知りながら、買い取ってしまった。母に叱責されるが、オットーと名付け世話を始める。ボノボは生後2年間、母親なしでは生きていけないのだ。オットーの母親役としての日々が過ぎていく。あと1週間で休暇も終わりオットーを飼育員に任せて帰国するという日、母は4頭のボノボを自然保護区へ移送することになり、ソフイーは母と短い別れの言葉を交わした。その直後、首都で戦闘がはじまった。アメリカ人のソフイーのもとには国連軍が救出にやってくるが、悩んだソフイーはオットーと残ることを選んだ。それは想像以上に過酷だった。革命という名のもとに略奪行為が横行し、保護施設も襲われ飼育員たちが殺された。高電圧で守られたボノボの飼育檻にオットーと一緒に逃げ込んだソフイーは命だけは助かったが、今度はボノボたちとの共同生活を学ばなければならなかった。

コンゴ民主共和国にだけ生息するというボノボに興味を持った著者は幼いボノボの死骸の記事を目にし、ボノボ保護施設を取材し小説にした。現地の住人は大型類人猿を尊重し、決して危害を加えない。ところが紛争に疲弊した人々は生活のためにボノボを殺し生け捕り売ろうようになってしまった。主人公の行動を通してボノボの生息を深く知り、コンゴ民主共和国の抱える問題を具体的に知ったような気がする。最後の場面、成長したソフイーと大人になったオットーの再会には胸が熱くなった。

(西村)

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

●一日図書館員の募集

- ・日時：7月21日(日) 9:15~18:00
 - ・対象：小学6年生~高校生
 - ・定員：3名(要申込)
 - ・締切：7月15日(月・祝)
- ※本人来館の上、窓口で申込んでください。

●ダンボール工作教室

- ・日時：8月10日(土) 14:00~16:00
- ・対象：小学生以上 (1~3年は保護者同伴)
- ・定員：15名(要申込・参加費無料)

*カレンダーの×印は休館日 *■は館内整理日 返却のみ受付(10:00~17:00)

*開館時間は10:00~18:00 金曜日は20:00まで開館

地下水

先日、息子を連れて行った病院で、図書館をよく利用されている母子に会った。その時はあいさつ程度で別れたが、翌日、図書館に来られたので声をかけたところ、「太子町は、公共施設の職員の方が、私たちと同じお母さんなんだな」と嬉しそうに話してくださった。

規模が小さく、利用者との距離が近い図書館だからそのいいところだろう。利用者の顔と名前を覚え、親しく声をかける。カウンターで返された本や趣味の話しながら、その人に合う本を探す。「植物図鑑はどこですか」と聞いてくれた方は、庭で増え始めたワラビ(と書いてあったので買って植えた植物)を、家族がワラビじゃないと言うので調べたいということ、こちらでも楽しみながら一緒に本を探すことができた。

もうすぐ夏休み。「おもしろい本ない？」と子どもたちがやってくる。もし、その子が探している特定の本が図書館に無くて、ゆっくりその子の話を聞いて、違う本を勧めることもできる。カウンターに立つ時は、ひとりひとりに丁寧に向き合い、利用者との一瞬のやりとりを大事にしたいと思う。

(池田)

